

令和4年度 マイクロプラスチック調査（速報）

1 調査日及び場所

調査日：令和5年1月9日～10日

調査場所：金手川（洞北橋）、奥畑川（門司区春日町）※1、竹馬川（新開橋）、清滝川（暗渠入口）※2 合計4地点

※1：環境基準点の宮前橋では、「低水位」「滞留（流れが弱い）」のためガイドラインに示す方法で採取できず、上流（約2.8km）で採取を実施した。

※2：「低水位」「流量不安定」等のためガイドラインに示す方法で採取できず、直上流の清滝公園の砂防堤内で採取を実施した。

2 測定方法

河川マイクロプラスチック調査ガイドライン（令和3年6月、環境省）

3 分析結果及び考察

(1) マイクロプラスチック(MP)の材質別個数密度結果 (個/m³)

項目	材質		河川名	金手川	奥畑川	竹馬川	清滝川
	名称	略称	調査地点	洞北橋	門司区春日町	新開橋	暗渠入口
材質別 個数 密度	ポリエチレン	PE		0.25	0.15	-	0.25
	ポリプロピレン	PP		0.60	0.40	0.25	0.40
	ポリエチレンテレフタレート	PET		1.10	1.20	0.15	0.85
	ポリウレタン	PUR		-	0.05	0.15	0.10
	ポリアミド（ナイロン）	PA		0.05	-	0.10	0.20
	ポリメチルメタアクリル	PMMA		-	-	-	0.05
	ポリスチレン	PS		-	0.05	0.05	0.20
	ポリ塩化ビニル	PVC		-	-	-	0.10
	ポリアクリロニトリル	PAN		0.05	0.05	-	-
	エチレン・アクリル酸共重合体	EAA		0.15	-	-	0.05
	エチレン酢酸ビニルプラスチック	EVAC		-	-	-	0.05
	1,2-ポリブタジエン	PBD		-	-	0.050	-
	ポリ酢酸ビニル	PVAC		-	-	-	0.05
	スチレン-ブタジエンプラスチック	SB		-	-	-	0.05
			総計		2.20	1.90	0.75

(2) 種類とサイズについて

- 洞北橋、門司区春日町及び暗渠入口では、ポリエチレンテレフタレート(PET)の割合が最も高く、次いでポリプロピレン(PP)、ポリエチレン(PE)が多かった。
- 個数密度の少なかった新開橋では、ポリプロピレン(PP)の割合が最も高く、次いでポリエチレンテレフタレート(PET)とポリウレタン(PUR)の割合が高かった。
- 洞北橋や門司区春日町では0.8～0.9mm前後のポリエチレンテレフタレート(PET)が多かった。
- 暗渠入口では長径0.7～0.8mmが多く、ポリエチレンテレフタレート(PET)やポリエチレン(PE)などの数種類の材質が見られた。